

授業科目名	生徒指導・進路指導論 (Student and Career Guidance)		
科目番号	96100(産業技術学部) 86100(保健科学部)	授業形態	講義
単位数	2単位	履修年次	3年次
教員の免許状取得のための必修・選択	必修	受講対象	産業技術学部 保健科学部
担当教員(研究室)	花屋 哲郎 (非常勤講師)		
実務経験のある教員による授業科目	市町村教育委員会の嘱託教育相談員として生徒指導・教育相談ケースを担当し、管轄内の小中学校と連携、協力した経験を有する教員が指導することによって、生徒指導等の理論と実際を往還しながら学ぶことができ、学校教育の現代的問題と向き合う準備を進めることができる。		
免許法施行規則に定める科目区分等	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
	生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
授業の到達目標	<p>テーマ: 児童生徒の成長と発達を積極的に導く方法 到達目標: 履修学生が以下のことをできるようになることである。</p> <p>(1) 生徒指導、進路指導(キャリア教育)とは何かについて、学校システム全体(組織、教育課程)に関連づけて説明する。</p> <p>(2) 児童・青年期における生徒指導(進路指導を含む)の取り組みがなぜ重要かについて 説明し、キャリア教育とどのように関連かを説明する。</p> <p>(3) 個別に、あるいは学級、学年、学校全体を対象として、児童生徒を育てる基本的な方法について説明する。</p>		
授業概要	<p>生徒指導(進路指導を含む)は、学習指導と並び、学校教育に欠くことのできない教育機能と言われている。しかし、この言葉自体は、厳しいしつけや問題行動への対応と受けとられることが多く、こうした誤解が広く生じたままである。果たして、生徒指導とは何か? 児童生徒の学業的、キャリア的、個人・社会的発達と適応はどのように理解されるのか? より実際的に、人はどのように生きる力を身につけ、自らの進路を選び、キャリアを拓いていくのか? この授業では、こうした生徒指導、進路指導、さらにはキャリア教育の理論、歴史、実際の取り組み、現代的課題について、基本的な知識・技能を学ぶ。そして、これからの生徒指導の考え方と取り組みについて発展的に考察していく。</p>		
時間外学修の内容と時間の目安	<p>準備学修: 授業前に各回のテーマについて、参考文献を利用し、かつ自分の経験をそれに重ねることによって問題意識を明確し、学修準備を整える (2H)</p> <p>事後学修: 授業後に、配布された資料を活用して各回の現代的問題の要点に焦点を当てて自分なりの解決案となる基本的な考え方を明確化する (2H)</p>		
授業計画	<p>第1回: これまでの生徒指導① 「人格の完成」ってどういうこと? (学校教育における生徒指導・進路指導の意義)</p> <p>第2回: これまでの生徒指導② 生徒指導・進路指導という概念が生まれる(生徒指導・進路指導の 発展史)</p> <p>第3回: これまでの生徒指導③ 学校教育という組織的取り組み(学校組織・教育課程における生徒 指導・進路指導及びキャリア教育の位置づけ)</p> <p>第4回: これまでの生徒指導④ 指導(ガイダンス)と援助(カウンセリング)、児童生徒の発達を支えるということ(資質・能力を育てる営み)</p> <p>第5回: 子どもの抱える困難と対応① 不登校</p> <p>第6回: 子どもの抱える困難と対応② 暴力行為と非行</p> <p>第7回: 子どもの抱える困難と対応③ いじめ</p> <p>第8回: 子どもの抱える困難と対応④ 学業問題</p> <p>第9回: 子どもの抱える困難と対応⑤ 高校中退とニート・フリーター</p>		

	<p>第10回:挑戦すべき課題① 学校教育が抱えている2つの問題(生徒指導・進路指導の現代的課題)</p> <p>第11回:挑戦すべき課題② 関わり方・見方の基礎・基本(適応と発達の促進)</p> <p>第12回:挑戦すべき課題③ 育てる学級・学校の環境づくり(風土・雰囲気をつくる)</p> <p>第13回:挑戦すべき課題④ 生きる力の学習体験をカリキュラム化する(学業的、キャリア的、個人・社会的な資質・能力を育てる教育活動の計画と実践)</p> <p>第14回:教師の仕事を識別する(学校・家庭・地域社会の協働体制)</p> <p>第15回:総合的考察 学校システムと生徒指導・進路指導の日米比較(生徒指導・進路指導の新たな全体像)</p> <p>期末試験は実施しない。</p>
テキスト	教科書は指定しない。毎回、講義資料を配布する。
参考書・参考資料等	<p>『生徒指導提要』、文部科学省、(教育図書)</p> <p>『報告書:児童生徒の一人一人の勤労観、職業観を育てるために』、キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議、</p> <p>(http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/023/toushin/04012801.html)</p> <p>その他、適宜、紹介する。</p>
成績評価方法	成績は、課題レポートにおいて確認される成果を 70%、毎時間の小レポート(全 15 回)を 30%で算出する。
成績評価基準	<p>授業時の議論と課題レポートの成果を対象に以下の基準に基づき総合評定を行う。</p> <p>A+:到達目標を達成し、特に優秀な成績を修めている</p> <p>A:到達目標を達成し、優秀な成績を修めている</p> <p>B:到達目標を達成し、良好な成績を修めている</p> <p>C:到達目標を最低限達成している。</p> <p>D:到達目標に達していない</p>